みんなで守ろう ふるさと新聞

桜江小5年 早弓岳快

桜江小五年生 稲作体験

ぼくたちの学校では、毎年五年生が、江津市桜江町市山の水田で米作りをしています。これまでぼくは、学習発表会でその様子を知ったり、収かくしたお米でたいたっ万葉ごはんを給食で味わったりしてきました。今年はいよいよ、ぼくたちの番です。

6/16 田植え

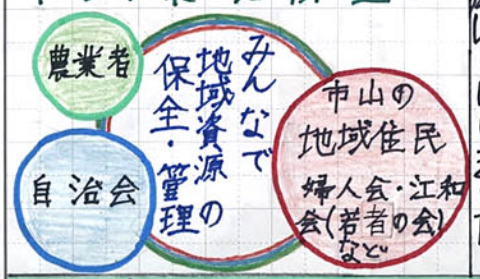
長いくつ下のまま、水田に入りました。どろにとられてくつがぬげてしまうからだそうです。植えたのは、古代米の黒米。見た目はみが、神楽の鈴のようにたくさんついていました。稲の根元から10㎝上を、親指を下にしてにぎり、かまでその下をカりました。ザクッという音と手ごたえが気持ちよかったら束ねました。それをバツ印になるように広げ、ほしました。

11/2 稲かり

八月に見に行った時には、こい緑色でぴんと立っていた稲が、黄色っぽくなり、上の方が曲がっていました。もみが、神楽の鈴のようにたくさんついていました。稲の根元から10㎝上を、親指を下にしてにぎり、かまでその下をカりました。ザクッという音と手ごたえが気持ちよかったら束ねました。10株くらい集まったら束ねました。それをバツ印になるように広げ、ほしました。

桜江小5年生が 毎年 稲作体験をするのはどうして？

稲作体験でお世話になったのは 市山環境保全会



市山環境保全会の会長さんにインタビュー

どんなことをしたの？

やぶさめのため池の復元

長い間放置されていた農業用ため池を、地元の人の手で再生した。モリアオガエルが卵を産みつける。

ここが市山八まん宮のやぶさめ(馬に乗って弓で矢を射る神事)の射場になっていたのが名前の由来

やぶさめの棚田

棚田を復元して、地域のシンボルに！

田植え体験の場として活用し、地域住民の手で保全していく。

桜江小5年生が稲作を体験

田植え　稲かりとはで干し　だっこく

しゅうかくしたお米

イノシシに入られてお米がしゅうかくできない年があったため、今使っているのは別の田んぼ。

・給食で出してもらう「万葉ごはん」
・地域行事(とんど焼きでのもちつき)等で使ってもらう。
(市山以外の4地区にも米を贈っている。)

桜江小2年生が 玉川で生き物観察

アユカケ　カジカガエル

第3回いきものにぎわい企業活動コンテスト 農林水産大臣賞を受賞

どうして会をつくったの？

高齢化
米作りをしていた人が年をとり、農作業ができなくなった。

↓

遊休農地
田や畑として使われない土地が増えた。

↓

遊休農地が荒れ地となる。

↓

鳥獣害
荒れ地にイノシシなどの動物がひそみ、近くの田や畑を荒らしたり作物を食べたりする。

↓

農業ができない。(作物も食べられてしまう。)美しくない。若い人たちが住みたくないと言って出て行ってしまう。そして人の住まない土地になってしまう。

このままではいけない

代々受けつがれてきた農地を子どもたちが受けつぎ、地域と高齢者を食で元気に

地域の自然や生き物に関心をもってもらう

現在直面する問題

会のメンバーの高齢化などで、活動を続けるのがむずかしくなってきた。

あれから10年

ぼくもやぶさめのため池に行ってみたいけど、草ぼうぼうで近よれなかったよ。もったいないな。

どうしたらいいかな ぼくの考え

若い人たちに会のメンバーになってもらう。そうしたらため池や棚田を整備してもらえる。

ぼくたち子どもも積極的に活動に参加する。

ぼくが新聞で知らせる

・こんないいものがあるよ。
・ぼくたちがした活動で地域の人を元気にできるよ。
・じいちゃんたちががんばってきたよ。

編集後記

ぼく達が体験した稲作。それは「米作りを通じて、子どもと地域の人とが関わってほしい。」という願いから始まりました。棚田の整備等、地域のみんなでしたことを、祖父母は楽しそうに話してくれました。市山にこんなよい場所や活動があるのに、聞いたことがないのはもったいないです。この新聞を読んだ人に、「まちたみんなでやろう。」と思ってもらえたら、うれしいです。